

## 2012年度 第1四半期 決算概要

- 
- I. 第1四半期 連結業績概要
  - II. 部門別情報
  - III. 2012年度 連結業績予想・修正
  - IV. 経営改善対策
- 

シャープ株式会社  
2012年8月2日

### 【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

## I. 第1四半期 連結業績概要

### 2012年度 第1四半期 実績

(単位: 億円)

	2011年度 第1四半期 実績	2012年度	
		第1四半期 実績	前同比
売上高	6,403	4,586	71.6%
営業利益	35	-941	-
経常利益	-6	-1,038	-
当期純利益	-492	-1,384	-

為替レート(平均)

(単位: 円)

米ドル	80.75	79.21
ユーロ	115.90	101.41

SHARP

### 特別損失

(単位: 億円)

	2011年度 第1四半期 実績	2012年度	
		第1四半期 実績	差額
固定資産除売却損	11	12	+1
投資有価証券評価損	0	11	+11
大型液晶操業損失	258	0	▲258
事業構造改革費用	66	142	+75
和解金	86	158	+72
特別損失合計	423	325	▲97

SHARP

## Ⅱ. 部門別情報

### 部門別売上高（第1四半期）

部門別売上高は、セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。(単位:億円)

	2011年度 第1四半期	2012年度		
		第1四半期	前同比	差額
AV・通信機器	2,976	1,341	45.1%	▲1,635
健康・環境機器	743	782	105.3%	+39
情報機器	661	647	97.9%	▲14
エレクトロニクス機器	4,382	2,772	63.3%	▲1,610
液晶	1,880	1,459	77.6%	▲421
太陽電池	513	419	81.8%	▲93
その他電子デバイス	455	474	104.2%	+19
電子部品	2,848	2,352	82.6%	▲495
小計	7,231	5,125	70.9%	▲2,105
調整額	-827	-539	-	+288
合計	6,403	4,586	71.6%	▲1,817

SHARP

### 部門別営業利益（第1四半期）

(単位:億円)

	2011年度 第1四半期	2012年度		
		第1四半期	前同比	差額
AV・通信機器	75	-202	-	▲277
健康・環境機器	67	82	122.7%	+15
情報機器	58	23	40.0%	▲35
エレクトロニクス機器	200	-96	-	▲297
液晶	-46	-634	-	▲588
太陽電池	-37	-69	-	▲31
その他電子デバイス	4	-50	-	▲54
電子部品	-79	-754	-	▲674
小計	121	-851	-	▲972
調整額	-85	-90	-	▲4
合計	35	-941	-	▲976

SHARP

## AV・通信機器

(単位: 億円)

	2011年度	2012年度						2012年度	
	第1四半期	第1四半期		上期		年間		年間	
	実績	実績	前同比	今回予想	前同比	今回予想	前年比	前回予想	前年比
売上高 ※	2,976	1,341	45.1%	3,200	55.1%	6,900	65.0%	9,200	86.7%
営業利益	75	-202	-	-230	-	-170	-	-50	-

※セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

**SHARP**

## 《液晶カラーテレビ》

(単位: 億円)

	2011年度	2012年度						2012年度	
	第1四半期	第1四半期		上期		年間		年間	
	実績	実績	前同比	今回予想	前同比	今回予想	前年比	前回予想	前年比
売上高	1,543	777	50.4%	1,700	54.6%	3,500	60.2%	5,000	86.0%
販売台数 (万台)	329	166	50.6%	375	54.5%	800	65.1%	1,000	81.3%

**【第1四半期の実績について】**

- ・アセアン等の新興国での販売は好調に推移
- ・中国市場での販売低迷、国内市場の大幅な需要減少

**【第2四半期以降の取り組み】**

- ・市場拡大が期待される新興国地域における取組み強化

(国内外台数内訳)

	2011年度上	2011年度下	2012年度上(予想)	2012年度下(予想)
国内	388	195	90	110
海外	299	345	285	315

(万台)

**SHARP**

## 《携帯電話》

(単位:億円)

	2011年度	2012年度						2012年度	
	第1四半期 実績	第1四半期		上期		年間		年間	
		実績	前同比	今回 予想	前同比	今回 予想	前年比	前回 予想	前年比
売上高	925	292	31.6%	1,006	58.3%	2,400	78.5%	2,800	91.5%
販売台数 (万台)	210	77	36.9%	267	65.1%	630	81.8%	770	100.0%

**【第1四半期の実績について】**

- ・海外携帯メーカーとの競争激化
- ・主要デバイスの供給不足による販売台数減

**【第2四半期以降の取り組み】**

- ・必要部材の安定確保による早期販売回復の達成(3月迄の必要量確保済み)
- ・「高精細」「低消費電力」を特長とした「IGZO液晶」搭載の新商品を市場投入

**SHARP**

## 健康・環境機器

(単位:億円)

	2011年度	2012年度						2012年度	
	第1四半期 実績	第1四半期		上期		年間		年間	
		実績	前同比	今回 予想	前同比	今回 予想	前年比	前回 予想	前年比
売上高※	743	782	105.3%	1,600	108.3%	3,200	109.5%	3,200	109.5%
営業利益	67	82	122.7%	150	97.4%	320	108.6%	320	108.6%

※セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

**【第1四半期の実績について】**

- ・海外市場においてエアコン、冷蔵庫の販売が堅調に推移

**【第2四半期以降の取り組み】**

- ・プラズマクラスター技術搭載商品の拡充とグローバル展開の推進
- ・アジア地区での生産能力増強による海外事業の拡大

**SHARP**

## 情報機器

(単位:億円)

	2011年度	2012年度						2012年度	
	第1四半期	第1四半期		上期		年間		年間	
	実績	実績	前同比	今回予想	前同比	今回予想	前年比	前回予想	前年比
売上高※	661	647	97.9%	1,400	100.9%	2,900	104.5%	3,100	111.7%
営業利益	58	23	40.0%	90	58.4%	220	79.3%	310	111.7%

※セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

### 【第1四半期の実績について】

- ・景気の不透明感による企業の投資抑制
- ・前期末の在庫消化による収益悪化

### 【第2四半期以降の取り組み】

- ・電子黒板やマルチディスプレイ等の新規商材によるソリューション事業の拡大

**SHARP**

## 液晶

(単位:億円)

	2011年度	2012年度						2012年度	
	第1四半期	第1四半期		上期		年間		年間	
	実績	実績	前同比	今回予想	前同比	今回予想	前年比	前回予想	前年比
売上高※	1,880	1,459	77.6%	3,700	90.3%	9,000	124.8%	9,300	129.0%
営業利益	-46	-634	-	-1,000	-	-1,050	-	-100	-

※セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

### 【第1四半期の実績について】

- ・中小型液晶: 大手ユーザーからの受注ズレ込み、工場操業度の低下
- ・大型液晶 : 在庫適正化を優先した大型液晶工場の稼働調整

### 【第2四半期以降の取り組み】

- ・中小型液晶: 亀山第1工場の量産化開始とWindows8発売に伴う需要拡大
- ・大型液晶 : 需要動向を見据えた生産、販売の推進と在庫適正化の取組み強化  
鴻海グループとの提携にもとづく安定操業維持

**SHARP**

## 太陽電池

(単位:億円)

	2011年度	2012年度						2012年度	
	第1四半期 実績	第1四半期		上期		年間		年間	
		実績	前同比	今回 予想	前同比	今回 予想	前年比	前回 予想	前年比
売上高 ※	513	419	81.8%	1,000	90.4%	2,600	116.1%	2,600	116.1%
販売量 (MW)	259	253	97.6%	600	103.9%	1,400	130.4%	1,400	130.4%
営業利益	-37	-69	-	-100	-	-100	-	-100	-

※セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

### 【第1四半期の実績について】

・海外市場の事業環境悪化、国内における競争激化、価格下落が進展

### 【第2四半期以降の取り組み】

・国内でスタートした「全量買取制度」を背景に、メガソーラー計画や発電事業に関わる受注案件の獲得を推進  
・川下領域へのバリューチェーン拡大

SHARP

## その他電子デバイス

(単位:億円)

	2011年度	2012年度						2012年度	
	第1四半期 実績	第1四半期		上期		年間		年間	
		実績	前同比	今回 予想	前同比	今回 予想	前年比	前回 予想	前年比
売上高 ※	455	474	104.2%	1,100	95.3%	2,600	109.2%	2,600	109.2%
営業利益	4	-50	-	-40	-	0	-	120	126.1%

※セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

### 【第1四半期の実績について】

・カメラモジュールの販売が好調に推移  
・液晶テレビ等、デジタル家電向けデバイスの競争激化等から、営業損失計上

### 【第2四半期以降の取り組み】

・LED等ライティングビジネス向けの販売強化に取り組む

SHARP

### Ⅲ. 2012年度 連結業績予想・修正

#### 部門別売上高（年間）

セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。(単位:億円)

	2012年度 年間 前回予想	2012年度				
		上期		年間		
		今回予想	前年比	今回予想	前回予想差	前年比
AV・通信機器	9,200	3,200	55.1%	6,900	▲2,300	65.0%
健康・環境機器	3,200	1,600	108.3%	3,200	0	109.5%
情報機器	3,100	1,400	100.9%	2,900	▲200	104.5%
エレクトロニクス機器	15,500	6,200	71.5%	13,000	▲2,500	79.7%
液晶	9,300	3,700	90.3%	9,000	▲300	124.8%
太陽電池	2,600	1,000	90.4%	2,600	0	116.1%
その他電子デバイス	2,600	1,100	95.3%	2,600	0	109.2%
電子部品	14,500	5,800	91.2%	14,200	▲300	120.0%
小計	30,000	12,000	79.8%	27,200	▲2,800	96.7%
調整額	-3,000	-1,000	-	-2,200	+800	-
合計	27,000	11,000	83.7%	25,000	▲2,000	101.8%

SHARP

#### 部門別営業利益（年間）

(単位:億円)

	2012年度 年間 前回予想	2012年度				
		上期		年間		
		今回予想	前年比	今回予想	前回予想差	前年比
AV・通信機器	-50	-230	-	-170	▲120	-
健康・環境機器	320	150	97.4%	320	0	108.6%
情報機器	310	90	58.4%	220	▲90	79.3%
エレクトロニクス機器	580	10	2.2%	370	▲210	72.5%
液晶	-100	-1,000	-	-1,050	▲950	-
太陽電池	-100	-100	-	-100	0	-
その他電子デバイス	120	-40	-	0	▲120	-
電子部品	-80	-1,140	-	-1,150	▲1,070	-
小計	500	-1,130	-	-780	▲1,280	-
調整額	-300	-170	-	-220	+80	-
合計	200	-1,300	-	-1,000	▲1,200	-

SHARP



## 設備投資・減価償却費・研究開発費・為替レート

(単位:億円)

	2012年度			
	第1四半期 実績	前同比	年間 予想	前年比
設備投資	377	353.6%	900	75.7%
減価償却費	524	89.4%	2,000	83.7%
研究開発費	414	96.0%	1,400	90.4%

為替レート(平均)

(単位:円)

米ドル	79.21	78.00
ユーロ	101.41	100.00

SHARP

## 合計4,000億円規模の財務体質改善対策（今期末迄）

大型液晶事業のオフバランス化	資産・負債の減少	1,100億円
第三者割当増資	自己資本の増加	669億円
在庫の適正化及び 固定資産の圧縮	棚卸資産減少 固定資産の圧縮	1,500億円
設備投資の圧縮	キャッシュ・フロー の創出	700億円

SHARP

## 棚卸資産・有利子負債の削減目標値

(単位:億円)

	2011年度末 実績	2012年度 第1四半期末 実績	対前年度末 増減	2012年度末	
				目標	対前年度末 増減
棚卸資産	5,274	5,137	▲137	4,000	▲1,274
月商比	2.6ヶ月	3.4ヶ月	+0.8ヶ月	1.9ヶ月	▲0.7ヶ月
有利子負債	11,271	12,520	+1,248	9,000	▲2,271

SHARP

## 主要連結業績項目（半期・年間）

(単位:億円)

	2012年度								
	上期予想			下期予想			年間予想		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
売上高	11,800	11,000	▲800	15,200	14,000	▲1,200	27,000	25,000	▲2,000
営業利益	-450	-1,300	▲850	650	300	▲350	200	-1,000	▲1,200
経常利益	-700	-1,600	▲900	500	200	▲300	-200	-1,400	▲1,200
当期純利益	-700	-2,100	▲1,400	400	-400	▲800	-300	-2,500	▲2,200

配当については、今回の業績予想の修正や財務状況等を勘案し、  
中間・期末共に無配に修正

SHARP

## IV.経営改善対策

### (1) 主な課題事業への対応

①堺工場の稼働について

②中小型液晶の取り組みについて

SHARP

### ①堺工場の稼働について

#### <第1四半期の状況>

- ・需要減と在庫消化優先による操業不足
  - ・在庫消化は、予定通り進むも、価格下落により追加コスト発生
- 稼働率30%程度

#### <第2四半期の見込み>

- ・鴻海のパネル引き取りは着実に進捗
  - ・シャープ外販先の受注拡大
- 稼働率80%程度

#### <第3四半期以降の見込み>

- ・鴻海のパネル引き取りは着実に進捗
  - ・シャープ外販先の受注拡大
- 稼働率80%~90%程度

SHARP

## ② 中小型液晶の取り組みについて

### ① 三重・天理工場

・車載・スマートフォンを中心に好調に推移。フル操業。

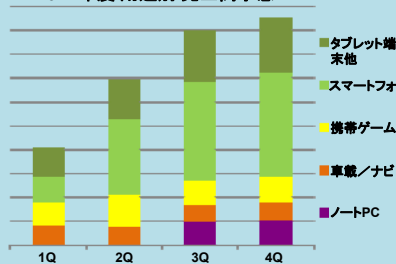
### ② 亀山第1工場

・スマートフォン専用工場として量産準備中。8月より量産開始予定。

### ③ 亀山第2工場

・タブレット、ウルトラPC等、中型高精細、低消費電力の特性を活かした成長ドライバー。

2012年度 用途別 売上高予想



#### ⇒課題

・大口顧客からの受注減による、大幅な操業ダウン、操業損の発生  
 ・新パネル(IGZO)デザインイン先、新規顧客先(ウルトラPC等)のローンチ時期ズレ。

#### ⇒対策

・デザインイン拡大 → 操業損解消  
 ・大口顧客受注増

SHARP

## (2) 2013年度以降の確実な利益回復に向けて

### <取り組み項目>

人件費： 400億円  
 減価償却費： 300億円  
 その他固定費： 300億円



固定費削減目標：1,000億円

厳しい経営環境下でも  
 営業黒字を確保できる筋肉質の経営体質に

SHARP

## (3) 新たな成長に向けた事業構造改革

### 成長領域に向けて全社組織と運営の見直し

- ①事業グループの再編
- ②事業所体制の見直し
- ③本社のスリム化
- ④人員のスリム化

SHARP

## ①事業グループの再編

### 4つの事業グループに集約・再編

- 1) デジタル情報家電グループ  
・IGZO応用商品群拡充による新たなデジタルライフの提案
- 2) 健康環境・エネルギーグループ  
・PCI・LED事業本部の新設によるBtoB事業拡大  
・省エネ、創エネ、蓄エネ、制エネへの取組みによる川下事業領域の拡大  
・アセアン市場拡大への積極展開
- 3) ビジネスソリューショングループ  
・BtoB事業強化に向けた販売体制の再編
- 4) デバイスグループ  
・IGZOの用途拡大と新規顧客の開拓  
・様々な特長デバイスの融合による新デバイスの開発

SHARP

## ②事業所体制の見直し

- ・栃木工場の縮小
- ・葛城工場の縮小

## ③本社のスリム化

- ・「小さく、強い本社」の実現
- ・戦略機能、統制機能の強化

↓

本部の整理縮小・人員のスリム化

↓

経営スピードの向上

SHARP

## ④人員のスリム化

自然減、オフバランスの他、希望退職を実施

↓

総社員数で、約5,000人を2013年3月末までに削減

	12年3月末	13年3月末	削減数
連結社員数	56,756人	約 51,700人	約 5,000人

SHARP

**SHARP**

**SHARP**